

第 15 回日本 LCA 学会研究発表会

企画セッション

現在と 2050 年をつなげるエネルギーシナリオを考える

セッションの趣旨

我が国では、温室効果ガスの排出量を 2050 年に 80%削減するという目標を掲げており、今後、低炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの大幅な利用拡大は必要不可欠です。

再生可能エネルギーの利用は、化石燃料の消費や二酸化炭素の排出を抑制するだけでなく、雇用を生み出す、新しい産業を創り出す、国のエネルギー安全保障を高める、など様々な価値を持ち得ます。特に、地方の疲弊が加速化しつつある我が国では、将来の低炭素化社会を目指す過程において、再生可能エネルギーが地域にもたらす価値を考えることは重要と考えられます。

本セッションでは、国際情勢も不確実性を増す中で、2050 年に向けた再生可能エネルギーを中心とするエネルギーシステムに到達する道筋を多面的に議論したいと思います。

セッションの構成

本セッションでは、まず、環境研究総合推進費（2-1804）「2050 年の社会像を見据えた再生可能エネルギー利用拡大への道筋」において得られた中間的な成果を、「地域」「コベネフィット」「再エネ熱利用技術」をキーワードに報告します。その後、パネリストの方からコメントを戴くとともに、フロアの方々と交えて議論を行う予定です。

セッションの趣旨説明（5 分）		本藤祐樹（横浜国立大学）
成果報告（50 分）		
再生可能エネルギー部門拡張産業連関表（REFIO）を用いた再エネ技術の効果分析		森泉由恵（横浜国立大学）
木質バイオマスを用いた地域熱供給の可能性		本藤祐樹（横浜国立大学）
海洋温度差発電の環境・社会経済影響		田原聖隆（産業技術総合研究所）
コベネフィットに着目したエネルギーモデル分析		小澤暁人（産業技術総合研究所）
パネル&フロアディスカッション（25 分）		工藤祐揮（産業技術総合研究所）
再生可能エネルギーの直接熱利用の視点から		秋澤淳（東京農工大学）
地域エネルギーの視点から		菊池康紀（東京大学）
自由な視点で		セッション参加者全員

環境研究総合推進費の研究課題 2-1804 の概要

https://www.erca.go.jp/suishinhi/seika/pdf/seika_2_03/2-1804.pdf

環境研究総合推進費の研究課題 2-1804 の実施者

本藤祐樹、森泉由恵（横浜国立大学）、田原聖隆、工藤祐揮、小澤暁人（産業技術総合研究所）